

新羽高校の校長が受検生のために作った新聞

# 羽ばたきの丘通信

令和6年7月4日 第5号

編集・発行 新羽(につば)高校校長 勝股 正

## 「飛ぶ図書館」という名のもう一つの教室

新羽高校には、「飛ぶ図書館」と名づけられた図書館があります。授業はもちろん、さまざまな活動で新羽高校の学びをサポートしている飛ぶ図書館をご紹介します。

図書館で息子の難病の治療法を発見する映画「ロレンツォのオイル」

「ロレンツォのオイル」（監督：ジョージ・ミラー）という映画があります。副腎白質ジストロフィーという難病の息子を救うため、

銀行マンの両親が、膨大で難解な文献に独学で取り組み、ついに、それまで医学者が発見できなかった新しい治療法を見いだすという実話に基づいた映画です。

この映画の中で、父親が国立衛生研究所の図書館で山のような論文と格闘していると、司書の人が、「あなたが探しているテーマの論文を見つけた」と、書庫から文献を出してきてくれるシーンがありました。

その文献が、父親が全く新しい治療法にたどり着くための大きな役割を果たすのです。

図書館司書には、ただ利用者が申請した図書を貸し出すだけでなく、このように、利用者の相談にのったり、協力して文献を検索した

り、収集したりと、利用者の調査や研究を支援する役割もあるのだと、改めて気づかされました。

新羽高校に異動してきて、新羽高校の図書館、「飛ぶ図書館」に出会って、「ロレンツォのオイル」で見たような、積極的に生徒の学習に協力して、探究的な学びを支援する活動が実践されていることを知りました。

新しいテーマで授業をやるときに図書館に相談に行く先生たち

どの高校にも図書館はありますが、新羽高校の図書館は、「飛ぶ図書館」と名乗るだけあって、他の高校の図書館とは、ひと味も、ふた味も違います。

(「飛ぶ図書館」の[ネーミングの由来は、公式HPを見て下さい](#))

私は、飛ぶ図書館を「新羽の探究学習センター」と呼びたいと思っているのですが、まさに、新羽の授業や学習活動の中心となっている場所なのです。

新羽高校では、授業で新しいテーマに取り組んでみようとしたとき、先生たちは飛ぶ図書館に相談に行きます。

学校司書の松田ユリ子先生は、先生たちの授業プランを聞き、狙いどおりの授業となるよう様々な助言をするとともに、飛ぶ図書館が協力できることは何かと考え始めます。

そして、数週間後。図書館が、ちょっとした大学のゼミ室のような雰囲気のある場所になって、そこで新しい授業が展開されるのです。

## カンボジアとインターネットで結んで 現代東南アジア史を学ぶ

「現代世界史」という授業で、担当教員の知人で、JICA（ジャイカ：国際協力機構）の職員として、カンボジアで開発援助の活動を行っている方がいて、高校生とオンラインで結んで、カンボジアや東南アジアの現代史的課題について話を聞く授業が企画されました（新羽高校では、こうした先生たちの人脈で、外部の方に授業に協力してもらうことがよくあります）。

この授業の準備として、飛ぶ図書館は、東南アジア史関係の参考図書を、他の高校図書館や県立図書館のネットワークで大量に集めてきてくれて、生徒たちはそれを手分けして読み込み、KJ法



(付箋を使ってアイデアを整理する方法)を使って、質問項目を練り上げていきました。

授業当日、飛ぶ図書館の閲覧室の真中に、インターネットにつないだ大型モニターが置かれ、それに向かって、次々と生徒が用意した質問をぶつけていきました。



インターネット  
の向こうの JICA  
職員の方から  
は、「よくそこ  
まで調べました

ね」というお褒めのことばまで頂戴するな  
ど、とても充実した授業となりました。

## | アハメドくんのいのちのリレー

2年生の英語コミュニケーションⅡの授業で、  
教科書に載っていた「アハメドくんのいのち  
のリレー」が取り上げられました。

「アハメドくんのいのちのリレー」は、医師  
でもある鎌田實さんが書いた、イスラエル兵  
に誤射され殺された **12** 歳のパレスチナ人のア

ハメドくんの臓器をイスラエルの病気の子供へ移植した実話で、それをピーター・バラカンさんが英訳しました。



2 学年全員が授業で学んでいた頃、飛ぶ図書館入り口近くの特設コーナーで、原文が載っている本を、それに関連した本と一緒に展示していました。



こんな風に、授業に関連した書籍をタイムリーに展示して、興味を持った生徒が手に取り、より深く学べるようにもしています。

## | 授業での利用は、年間なんと 137 時間

令和5年度は、「ミュージックビデオ『アイドル』を読み解く」、「『こころ』のPOPをつくる」など、テーマを聞いただけでも、面白そうな授業が、飛ぶ図書館の協力で行われました。

授業の支援をしてもらった先生は昨年度1年間で26人、授業時間は、137時間（1時間は50分授業）に及びます。

授業以外でも、飛ぶ図書館はイベントを開いて、生徒たちを集めています。



その一つが、  
「けん玉チャレンジ」。

飛ぶ図書館には、いくつもけん玉が置いてあり

り、昼休みに、力試しをする生徒たちが集まります。

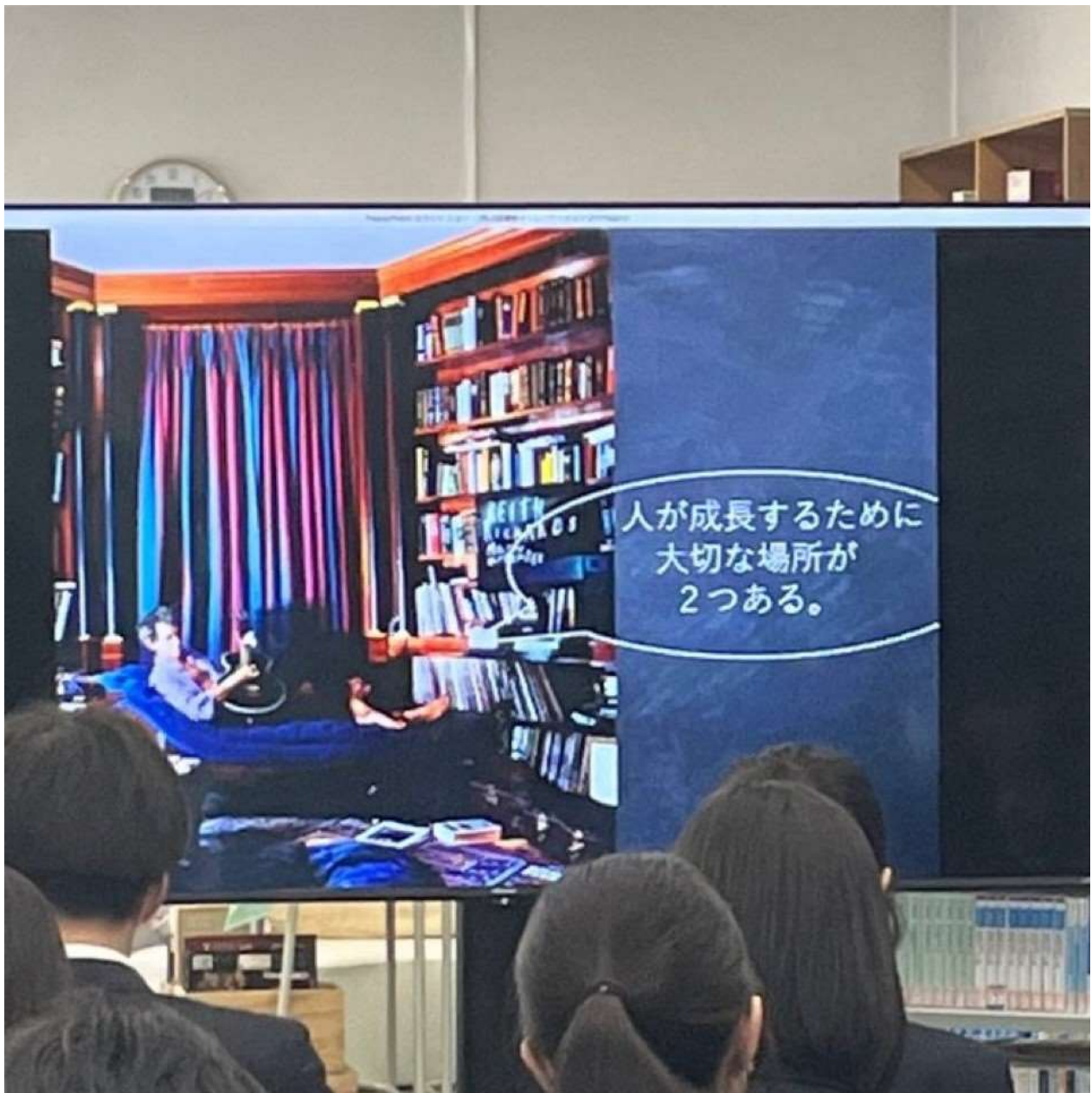
歴代記録が次々と更新されているらしく、新羽の名物行事になっています。

## | 新羽生が成長するために大切な場所

司書の松田先生は、年度始めの新生向けに行われる「図書館オリエンテーション」を大切にしています。

それは、新羽高校の飛ぶ図書館が、新羽生の学びにとって、とても大切な場所であり、他の図書館と違う、様々な生徒を受け入れる懐の深い場所だと知ってもらいたいからだと思います。

図書館オリエンテーションのスライドの最後には必ず、ローリング・ストーンズのギタリスト、キース・リチャーズのことばが紹介されます。



キースは、幼い頃、図書館に通って本を読むのが好きだったそうです。

そのキースがこう語っています。

「人が成長するために大切な場所が2つある。一つは教会で、もう一つが図書館だ」

私は、こう言いたいと思います。

「新羽生が成長するために大切な場所、それが飛ぶ図書館だ」

## 編集後記

新羽高校の[夏季学校見学会](#)の予定が発表になりました。各回の前日 12 時までの事前予約になります。参加をお待ちしています。